

# 漫画「光とともに…」作者 戸部けいこさん死去

## 自閉症児の母描く

### 累計240万部 理解広める ■ 書

自閉症児を持つ母親の苦悩と喜びを描いた人気漫画「光とともに…」の作者、戸部けいこさん（写真）が先月28日、東京都内の病院で亡くなった。享年52。見えない障害のせいで偏見に傷つく当事者の日常をわかりやすく伝える作品は、幅広いファンに愛された。「知ってもらえれば、誤解もなくなる」とひたむきにペンを握って10年。1年前からの療養休載中も病床で構想を練った。遺稿は3月発売のコミック誌から掲載され、物語は完結へ向かう。

（高橋美佐子）



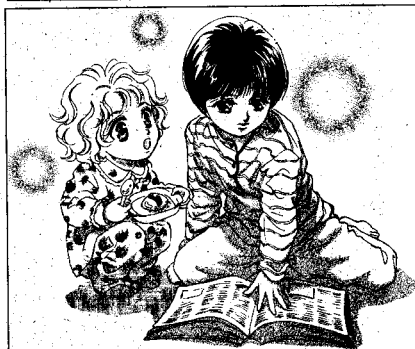
秋田書店提供

主婦向け月刊誌「フオアミセス」（秋田書店刊）で連載が始まったのは、2000年10月。戸部さんが自閉症児「光」のモデルに出会ったのは、その半年前だった。東京都内の保育園に通う次男の卒園式で、子どもたちは1人ずつ証書を受け取り、将来の夢を披露した。だが、ある男児だけは母親に付き添われ、壇上へ。母親は、無言の我が子の手を握りしめ「ぼくは、明るく元気に働く大人になります」と代弁した。

園で唯一の自閉症児。その子の母親で、今は山形県米沢市に住む佐藤和美さん（44）は「式後の謝恩会で戸部さんが駆け寄ってきて『今の場面を漫画で描かせて』と頼まれた。当時は誤った情報が多く、少しでもこの障害への理解が深まれば、と了解しました」と振り返る。実はこの時、戸部さんは激し



大きくなったら  
明るく元気に  
働く大人に  
なります



●単行本第1巻のクライマックス。次男の卒園式で目の当たりにした光景が、創作のきっかけになった●妹の花音（左）は健常者。屈託のない明るさで兄に寄り添う。いずれも©戸部けいこ／秋田書店

「光とともに…」のあらすじ  
専業主婦の東幸子は、エリート会社員の夫雅人との間に第一子の男児、光を授かった。だが、名前を呼んでも反応せず、抱っこをひどく嫌がる。1歳半児健診で自閉症と診断。パニックを起こして泣き叫び続ける我が子に、周囲から「しつけがな

っていない」「育て方が悪い」と非難される日々。幸子は心をすりへらし、夫婦に危機が訪れる。

だが幸子は光の純真な姿に勇気づけられ、雅人も次第に家庭へ目を向ける。次々に壁が立ちはたかるが、夫婦で向き合い、福祉関係者や地域の仲間にも支

えられ、一つずつ乗り越える。光は保育園から小学校へと進み、7歳下に生まれた健常者の妹花音とともに成長していく。

休載直前の09年3月号では、光は中学2年生。一家は自閉症への理解に乏しいしゅうとめと同居し始めた。

く後悔した。卒園児に夢を語りせようと提案した一人だったから。「自閉症に無知で、あの親子に申し訳なかった」との思いが創作の原点になった。

近所に暮らす佐藤さんに、生活の中で感じる思いを何度も丁寧に聴いた。専門家の講演会に通い、文献も取り寄せた。出版社にかけあい、月刊コミック誌での3カ月分の連載枠を確保した。予想以上の大好評で、看板作品になった。

少女漫画を思わせるロマンチックな筆致で、親しみやすい家族ドラマとして物語を展開させた。そこに、言葉でのコミュニケーションが苦手といった様々な特性、それを踏まえた教育現場での先駆的な事例、地域のサポート体制などを、ごく自然な形で織り込んだ。関心のない読者への戸部さんの工夫だ。

## 専門家に綿密取材

全国から自閉症児が受診する「よこはま発達クリニック」院長で児童精神科医内山登紀夫さん(66)は、「戸部さんはいつも『私は素人だから』と言っては親たちや専門家への綿密な取材を重ね、非常に勉強熱心だった。漫画という形で具体的な支援方法まで描いた功績は計り知れない」と高く評価する。

10年来の付き合いがあった川崎市自閉症協会の明石洋子会長(63)は、長男(37)の少年時代、その個性を知ってもらおうと「手作り新聞」を地域へ配り続けた。そのエピソードが、戸部さんの作品に盛り込まれた。

「自閉症児の親には、家族や地域住民に理解してほしい」と、漫画を配った人も多い。戸部さんはありがたい存在だった。いま公務員として働く私の長男は光

くんの未来像。この先の成長を手本にしようとしていた読者は多いはず」と肩を落とす。

いま、全国の小中学校の普通学級に通う子ども約6%に、自閉症を含む「発達障害」の可能性があると指摘される。

漫画家草野誼さん(48)も自閉症の子がいる。戸部さんの作品は数年前から愛読してきたが「障害というテーマと関係なく、初めて面白いと思った女性向け漫画でした」。その後、3年前に娘が3歳児健診で自閉症と告げられた。こだわりの強いが、とてもユニークで可愛い。そんな娘がモデルの連載「おなかまるだしこちゃん」を一昨年から同じ月刊誌でスタートさせたが、我が子の障害は隠していた。

だが、戸部さんが病気で休載中、「命を削って取り組んだテーマを少しでも引き継げれば」と、連載に「自閉症スペクトラム虹色ストーリー」と副題を掲げて公表した。「戸部先生が大きな幹を作ってくれた。僕は枝葉を描いていきたい」と

## 世界で翻訳版発売

「光とともに……」は04年、文化庁メディア芸術祭マンガ部門の優秀賞に輝き、同じ年にテレビドラマ化されて話題になった。韓国、台湾、香港、米国で翻訳版の単行本が発売されている。日本語版の単行本は現在、14巻まで出版、累計240万部。秋田書店によると、戸部さんは昨年1月に胸の病気が発覚後、光の中学校卒業で物語を終えることを決めていた。遺稿はベッドの上で2話分だけ完成。残る2話は「ネーム」と呼ばれるストーリー展開だけが書かれた状態だ。担当編集者は「ただし結末はできている。これらを収録し、全15巻を発売し、物語を完結させる」と話している。